

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 17 章 11-19 節＞
この話のテーマは何？ — 聖書が示す「救われる」の内容。

1 (11-17) イエス様によって病の苦しみから解放された 10 人。

「**重い皮膚病**」(12) (元のギリシア語はレプラ、英語でもレプラシー) はハンセン氏病 (らい病) のことです。今では感染力の弱い病だと分かっていますが、当時は分からず恐れられていました。仲が悪いユダヤ人とサマリア人でしたが、この病を負っていた人々が一緒に生きていたことがここを読むと分かります。同じようなことは今の社会でもあると思います。その彼らにとって癒しの奇跡を起こされるイエス・キリストは希望の星であり、期待を抱いて「**出迎え**」(12)、イエス様が言われたことに聞き従い、そして癒されたのです。しかし、病が治った時にすぐにイエス様の所に戻って来たのは 10 人のうちサマリア人の一人だけでした。この話は何を伝えようとしているのでしょうか？ 聞き取るべきは何なのでしょう？ それは本当の「**救い**」(20)とは何なのか、聖書はそれを何だと言っているのかです。

2 (18-19) イエス様の所に戻って来た人と来なかった人の違いは？

ルカは、イエス様の所に戻って来た人は「**大声で神を賛美しながら戻って来た**。そして、**イエスの足もとにひれ伏して感謝した**」(16)と描写し、イエス様は「**この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか**」(18)と言われたと記しています。「**神を賛美する**」が共通していると共に、「**足元にひれ伏す**」はイエス様その方を礼拝する行為を意味しています。つまり、戻って来たサマリア人は病が癒されたことを喜ぶだけで留まらず、病をいやされたイエス・キリストその方と出会ったことを喜び、その方こそが大事なお方であることを深く悟ったのです。イエス様が最後に言われた「**立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った**」(19)の「**信仰**」は、私たちの信じる強さではなく、信じる対象である方の内容の確かさを考えなければならない言葉なのです。

3 主が十字架に向かう途上の出来事 — 神様の救いは全ての人に！

この出来事が「**エルサレムへ上る途中**」(11)で起こったこと、サマリア人がイエス様に真の神様を見たことは、この後のイエス様の十字架の死によってもたらされる救い (真の神様と共に生きられる!) が全ての人に及ぶものであることを予示しています。しかしそれはまた、すでに旧約聖書の中に見ることができる救いです (列王記下 5:1~)。